

# 地質調査総合センター記念講演会開催について

金原 啓司<sup>1)</sup>・久保 和也<sup>2)</sup>

産業技術総合研究所/地質調査総合センターは、2002年6月7日、東京明治記念館において、記念講演会を開催しました。この時期に記念講演会を企画した理由は2つありました。1つは、昨年4月に独立行政法人産業技術総合研究所(産総研)が発足したことに伴い、旧工業技術院地質調査所の機能と業務が産総研/地質調査総合センターに全面的に引き継がれて、丁度1年経過したことです。また、もう1つは、その地質調査所が明治15年(1882年)に創立されてから今年で丁度120年目にあたることです。

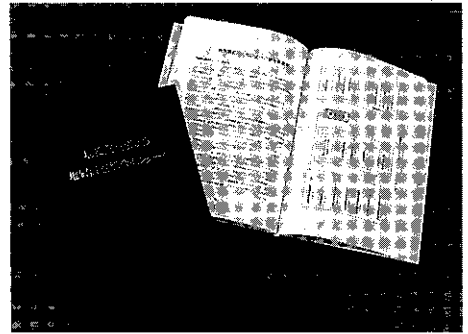


写真3 記念出版物。



写真1 地質調査総合センター(産総研第7事業所)。

今回の記念講演会は、記念出版物の刊行とセットにして、地質調査総合センター記念事業として企画しました。昨年8月から準備を開始した記念出版誌「地質調査所から地質調査総合センターへ」(遠藤祐二編集委員長, 89ページ)は、地質調査所120年の歴史と地質調査総合センターの新たな活動が

記述されており、6月7日の記念講演会において出席の皆様にご配付しました。

記念講演会は、地質調査所創立120周年の歴史を顧みると同時に、21世紀における産総研地質調査総合センターの新たな役割を展望することを意図しました。当日は、関連の団体、研究所、大学・学会、企業の関係者、及び地質調査所OB等、約250名の御出席のもとに、濱田隆道経済産業省大臣官房審議官、徳岡隆夫日本地質学会副会長、森研二全国地質調査業協会連合会会長から御祝辞を賜るとともに、米国地質調査所所長上級科学顧問James Devine博士及び中国地質調査所副所長Zhang Hongtao博士からの地質調査活動に関する特別講演、また長崎県島原市の吉岡庭二郎市長からは地質調査総合センターの活動に対するあついメッセージをいただきました。



写真2 記念講演会会場風景。

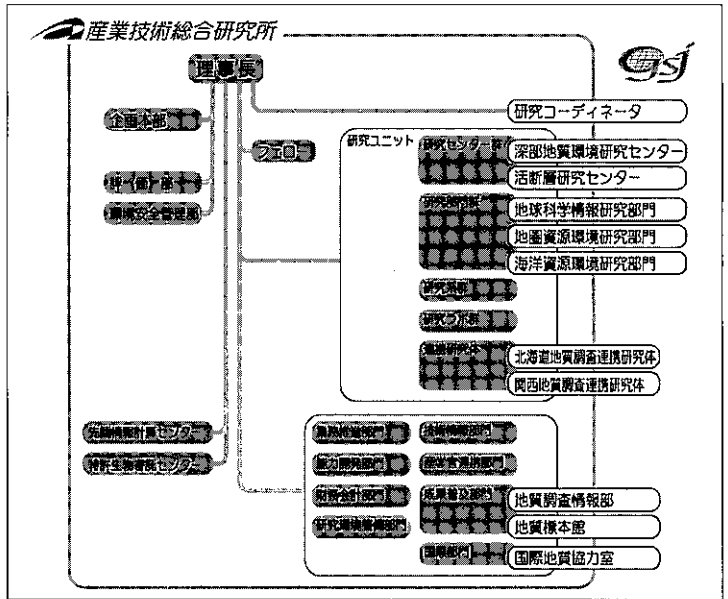
1) 産総研 研究コーディネータ  
2) 産総研 地球科学情報研究部門, 記念講演会事務局長

キーワード: 地質調査所, 産業技術総合研究所, 地質調査総合センター, 記念講演会, 記念出版物, 120周年

地質調査総合センターの前身である地質調査所は、産総研の母体となった15研究所の中でも最も長い歴史をもっています。明治15年(1882年)に農商務省内に設置されて以来、幾多の変遷を経て、昭和57年(1982年)には創立100周年を迎えました。とりわけ、昭和54年(1979年)の筑波研究学園都市移転に伴い、新宿と川崎にあった庁舎の統合がはかられ、近代的な諸設備を備えた新生地質調査所の活動がスタートしました。つくば移転後の20年間は、高度経済成長や石油危機、公害問題、地震・火山災害、地球環境問題、情報化等の社会的・政策的要請に対応して業務範囲を拡大させるとともに、技術的、学術的にも飛躍的な進歩を遂げた時代でもありました。過去

120年の間に、農商務省、商工省、軍需省、通商産業省、経済産業省とその所属は変遷しましたが、ほぼ一貫して地質調査所の名称を継承し、我が国唯一の地質に関する総合的調査研究機関として活動を展開するとともに、世界129ヶ国の地質調査機関と連携した国際協力活動等も積極的に展開してきました。

昨年4月、工業技術院に所属していました地質調査所を含む15研究所及び計量教習所は、新たに独立行政法人産業技術総合研究所として再編され、常勤研究者2,500名、支援部門を含めると全体で3,200名の職員を擁する、我が国で再大規模の公的研究所となりました。産総研はライフサイエンス分野から、ナノテク・材料・製造、情報・エレクトロニクス、環境・エネルギーまで幅広い産業技術分野をカバーしていますが、地質の調査、計量・標準といった社会基盤・知的基盤整備を担うことも産総研ミッションの大きな柱となっています



第1図 地質調査総合センターの仕組み。

産総研における地質の調査ミッションは、2つの研究センター(深部地質環境研究センター、活断層研究センター)と3つの研究部門(地球科学情報研究部門、地圏資源環境研究部門、海洋資源環境研究部門)を中核に、北海道と関西の地質調査連携研究体、及び国際地質協力室、地質標本館、地質調査情報部等の研究支援部門とユニット間の調整を行う研究コーディネータ等を一括して総称する「地質調査総合センター(Geological Survey of Japan)」が担っています。

この度の記念講演会を契機に、産総研/地質調査総合センターは我が国における唯一の地質の調査に関する総合的調査研究機関として、従来に増して国及び社会からの多様な要請と期待に応えることができる調査研究活動を実施し、その成果を国内外に発信していく所存ですので、皆様からの力強い御支援、御鞭撻をお願いする次第です。

KIMBARA Keiji and KUBO Kazuya (2002) : On the commemoration lecture of GSJ 120th anniversary.

<受付：2002年7月15日>